

## 認知症の種類と画像所見



施設長 栗田 明

平成28年の人口統計によると我が国の人口構成は、65歳以上の割合が27.3%を占める超高齢化社会に突入し、人口割合は2065年には2.6人に1人が65歳以上になると予測されています。

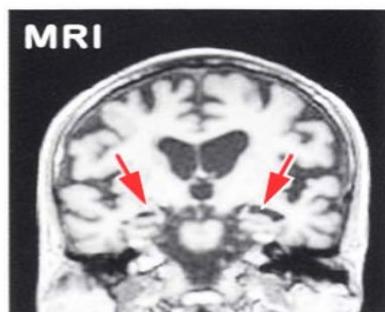
平成28年の国民生活調査によると脳血管障害や認知症の人が増加しており、2012年には462万が2020年には630万人に達すると予測されています。

認知症が進行すると記憶障害に加えて失語、失行などのために日常生活ができなくなります。認知症は表に示すように、アルツハイマー型の認知症と幻視や悪夢などを訴えるレビー小体型の認知症と脳血管性の認知症に3群にわかれます。最も一般的なアルツハイマー型の認知症は、認知症全体の50%を占め、老人班や神経の変性繊維変化が脳の海馬を中心に広範囲に出現し脳の画像で委縮が認められます。

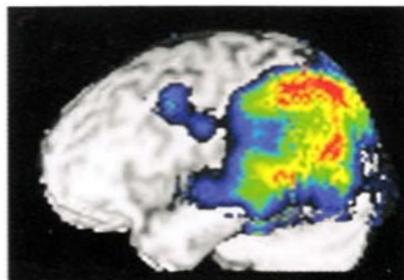
レビー小体型の認知症は、脳の萎縮像はみられないことが多く、姿勢が前傾で小刻み歩行（パーキンソン病）になり幻視、妄想がひどくなり、異常行動が現れます。脳血管性認知症は脳梗塞や脳出血によって脳の一部が壊死したために発症し手足のしびれや麻痺を伴います。急に発症し、段階的に進行します。認知症の治療はアリセプトやメマリー、レミニールが一般的です。このほかに、①音楽療法、②回想療法（過去の写真や思い出を語り合う）、③運動療法（リハビリなど）、④美術や書道 ⑤アニマルセラピーなどが有効です。もし認知症が心配な場合には、認知症専門外来を受診し指導を受けることをお勧めします。

認知症	アルツハイマー型	レビー小体型	脳血管性
脳の変化	老人は海馬を中心	神経細胞の死滅	脳梗塞、脳出血で脳の血液循環
男女	女性が多い	男性がやや多い	男性が多い
初期症状	物忘れ	幻視、妄想、うつ	物忘れ
特徴的な症状	認知症、徘徊 もの盗られ	認知の変動 幻視、妄想 パーキンソン症状、 睡眠時の異常行動	認知機能障害 (まだら認知) 手足のしびれ、麻痺 感情のコントロール不調
経過	記憶障害からはじまり広範な障害	調子の良い時と悪い時を繰り返す	比較的急に発症し段階的に進行

### 画像でみるアルツハイマー型認知症



海馬が縮んでいます。



色のついている部分で、血液の流れが低下しています。